

大崎の歴史を守り 後世に語り継ぐ



国指定
籬菊双雀文様鏡

11万年前までは海だったと言われている、大崎町。約11万年前の旧石器時代に阿多カルデラの大噴火で火砕流が積みもり、台地ができました。その後、約3万年前の始良カルデラの大噴火で火砕流がさらに積みもり、旧石器時代の人々は全滅したと思われるます。このときの火砕流堆積物は、シラス台地と呼ばれる広大で不毛な台地を形成しました。

先祖は地域の風土に合わせて便利で豊かな暮らしをめざし、さまざまな工夫を凝らしてきました。シラス台地を活かしてサツマイモや大根、大豆などを作り、豊作や地域、家族の平穏や繁栄を願って、神社や寺院、仏像を作って神や仏に祈りました。

こうした先祖の暮らしや祈りが形となって、現在まで継承され、地域の人々によって今日まで大切に守られているものが、本町には数多くあります。これを「文化財」と言います。



町指定照日神社神舞
(小鬼神舞)

その背景を調べ、後世に語り継ぐ人々がいます。「歴史探学会おおさき」は、本町の歴史を研究し、その魅力を伝えるボランティアグループで



都萬神社・荒神面

す。平成20年度生涯学習講座「おおさき歴史知っちゃいどん養成講座」、平成21年度「郷土史研究員養成講座」の修了生によって平成22年度に設立され、14年目を迎えます。これまで、文化財を紹介する「まち歩き案内」の他にも、歴史的な文化財を守る取組や「史跡ガイドブック」の作成などに携わってきました。

今回、大崎の歴史にハマり、後世に残そうと熱い思いで活動している探学会の皆さんに、お話を伺いました。



田の神